

## 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(Δ02)

**目 的** 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術については、国により選定された技術及び未選定の技術について情報を収集し、そのなかで重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

**成 果** 1. 風俗慣習の調査として正月儀礼等について、民俗芸能の調査としてシシ系芸能や風流系芸能等について、民俗技術の調査として和船の製作技術や箕の製作技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状把握とともに現地関係者とのネットワークを構築した。



日置箕製作の様子

2. 災害被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、福島県浪江町、宮城県女川町にて継続的調査を行い、資料収集・記録保存を行った。また無形文化遺産総合データベース・アーカイブスの構築とデータ収集を行った。
3. 第13回無形民俗文化財研究協議会を「いま危機にある無形文化遺産—無形民俗文化財の休止・廃絶・継承をめぐって」をテーマに東京文化財研究所において開催し、129名の参加を得た。4件の事例報告をもとにコメンテーター2名を含めた総合討議を行った。成果は『第13回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。また民俗芸能の継承者を招いて「祭ネットワーク」を株式会社オマツリジャパンと共催で2度開催。継承の現状と課題の共有・討議を行った。成果は『祭ネットワーク報告 シシマイ×シシマイ』にまとめた。
4. 選定保存技術については、未選定の文化財の保存技術の調査として、友禅の下絵に用いる染料である青花紙の製作について滋賀県草津市と共同研究を実施し、その成果を報告書として刊行した。また滋賀県長浜市において滋賀県教育委員会の協力のもと、曳山金工品修理技術（滋賀県選定保存技術）の調査と映像による記録作成を行った。

**論 文**・今石みぎわ：「箕づくり技術の継承と変容を考える—「箕サミット—編み組み細工を語る」の試み」『月刊文化財』655 文化庁文化財部 pp.41-43 18.4

**刊行物**・『祭ネットワーク報告 シシマイ×シシマイ』 19.3

・『青花紙製作技術に関する共同調査報告書—染織技術を支える草津のわざ』 19.3

**研究組織** ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予(以上、無形文化遺産部)、江村知子(文化財情報資料部)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池健策、宮田繁幸、神野知恵(以上、客員研究員)